

看護実践研究センター
令和6年度 活動報告書

公立大学法人山形県立保健医療大学

目 次

学長挨拶	1
看護実践研究センター長挨拶	2
1. 看護実践研究センター概要	3
2. 地元ナース事業推進部会	4
令和6年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム	5-11
令和6年度フォローアップ研修	12-14
令和6年度看護 up to date	15
令和6年度相互交流研修事業	16-20
令和6年度「地元ナース事業推進部会」事業評価表	21-26
令和6年度協力病院連携会議の概要	27-29
令和6年度協力病院連携会議出席者名簿一覧	30
令和6年度地元ナース懇談会の概要	31-32
令和6年度地元ナース懇談会出席者名簿一覧	33
3. 教育力向上部会	34
4. 地域連携推進部会	35-36
5. 令和6年度看護実践研究センター運営委員名簿	37
資料	
・山形県立保健医療大学看護実践研究センター運営要綱	38-40
・山形県立保健医療大学看護実践研究センター運営規定	41-42
協力病院・施設、協力病院の位置づけ	43

令和 6 年度看護実践研究センター活動報告書の発行に際して

山形県立保健医療大学理事長・学長 上月 正博

公立大学法人山形県立保健医療大学看護実践研究センター（以下「本センター」）は、地域の医療福祉の充実に資する大学教育の内容・方法を本学看護学科とともに開発すること、山形県の看護実践水準の向上を図ること、その成果を全国・世界に発信し同様の地域性を有する看護系大学等の先遣としての役割を果たすことを目的としております。

本センターは、県内の看護職を対象に看護継続教育、研究指導、情報発信等をおこなうことにより、山形県の看護実践水準の向上を図るという目的で、文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の中の「地域での暮らしや看取りまで見据えた看護が提供できる看護師の養成」事業の一つとして「山形発・地元ナース養成プログラム」が採択されたことを契機として、平成 26 (2014) 年 12 月 1 日に開設されました。国からの補助が終了した令和元 (2019) 年度からは本学独自の事業として取組むこととなり、「地元ナース事業」に加えて、「教育力向上事業」「地域連携事業」なども本センターの活動範囲とし、対象も小規模病院等に限定せずに山形県内の看護職全体に拡大し、現在に至っております。

令和 6 年度では、本報告書にありますように、「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」では新規施設からの参加を含め昨年度を上回る 31 名の受講者数がありました。また、恒例の「フォローアップ研修」、「Jナースカフェ」、「看護 up to date」も開催し、好評を得ました。「相互交流研修」でも5日間にわたり7施設、10名の参加者がありました。

本センターの活動は、本県のみならず、全国における諸々の保健・医療・福祉の問題に対する解決策の一助になると期待されます。令和 7 年度からは、履修証明プログラム「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」を拡充再編し、大学院博士前期課程の新たな履修証明プログラムとして「地元ナース特論」(2単位)として開始します。科目等履修生も受講できる科目として、さらなる充実をはかっていく所存です。今後とも、皆様のご指導・ご鞭撻をいただければ幸甚に存じます。

(令和 7 年 3 月吉日 記)

ご挨拶

● 新たな時代に向けて

With コロナの時代の時代を迎え、国は様々な施策を打ち出しています。1つは、2023年10月26日に「看護師等の確保を促進するための措置に関する基本的な指針」が告示されたことです。これは、1992年に制定された「看護師等の人材確保の促進に関する法律」に基づき同年制定された基本指針が、約30年ぶりに初めて改定されたものであり、看護職の生涯学習支援の体制が明示されました。2つ目は、2022年に文部科学省が行った履修証明制度の改正です。当該大学院が大学院教育に相当する水準を有すると認める場合、当該履修証明プログラム全体に対する単位授与を可能とする、という改正です。

今年度、本センターは、これらの国の施策を踏まえ、10年目を迎えた地元ナース事業について今日的な看護職の生涯学習支援の観点に基づく見直しを図りました。来年度以降は、大学としての持続可能な仕組みにするべく、地元ナース事業を本学大学院博士前期課程の科目「地元ナース特論」として位置づけます。履修証明書を交付する60時間以上の履修者については、大学院博士前期課程の科目等履修制度に則った運用を行います。一方、山形県の看護職の生涯学習を推進するために、部分的な受講も認める予定です。

新たな時代に向け、関係者の皆様方（協力病院等、山形県看護協会、山形県所管課）のお知恵を賜りながら、より良いリカレント教育（学び直し）となるよう努力したいと存じます。

● 山形県の施策とともに

本センターでは地元ナース事業とともに、山形県のさまざまな事業を受託しています。「自殺予防のためのSOS教育及び心のサポーター養成推進事業」「母子保健コーディネーター研修会」「高校生を対象とした看護体験セミナー」等です。とくに、「自殺予防のためのSOS教育及び心のサポーター養成推進事業」については、社会的ニーズが高く、当初予定を上回る実績が上がっています。公立大学の看護実践研究センターとして、設置主体である山形県の施策を推進することは大変重要です。今後も県との協働を進めていきたいと存じます。

● センターの目標

本センターは、①地元ナースが地域包括ケア時代のフロントランナーとなる看護実践水準の向上を図る、②本学看護学科の教員全員を本センターの所属とする強みを生かし、地元医療福祉を強化した大学教育（授業や実習等）をセンター事業と連動させる、特色を有しています。成果を全国・世界に発信していくことや、大学教育の内容・方法を本学看護学科とともに開発し、同様の地域性を有する看護系大学への波及を目指しています。

皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

センター長 菅原 京子（看護学科教授）

令和 6 年度(2024 年度)看護実践研究センターの概要

目的

県内の看護職を対象に看護継続教育、研究指導、情報発信等を行うことにより、本県における看護実践水準の向上を図る。

看護実践研究センター職員

センター長 菅原 京子
兼任職員 看護学科教員

看護実践研究センター運営委員会

実践センターの円滑な運営を図るため、実践センターに運営委員会を置く。
実践センターに部会を置くことができる。

令和 6 年度看護実践研究センター運営委員

委員長 看護学科教授 菅原 京子
副委員長 看護学科教授 沼澤 さとみ
委員 看護学科教授 遠藤 和子
委員 看護学科教授 安保 寛明
委員 看護学科教授 桂 晶子
委員 事務局長 熊谷 岳郎
事務局 総務課長 庄司 和弘
事務局 総務課主事 横尾 美聡

部会名【地元ナース事業推進部会】
委員名 菅原京子 佐藤志保 鈴木育子 高橋直美 鈴木龍生 栗田敦子 貝野瀬友希 小松良子
<p>○小規模病院等看護職リカレント教育</p> <p>令和6年8月下旬～11月下旬に小規模病院看護ブラッシュアッププログラムを開催し13施設・31名が参加した（3名は新規施設2ヶ所から）。6名が60時間以上受講し履修証明書交付を受けた。フォローアップ研修は看護研究ステップアップに1名が参加し看護研究に取り組んだ。診療所看護職対象の看護up to dateはオンラインのみで、令和6年12月に「認知症と認知機能のアセスメント」のテーマで開催し8名が参加した。令和7年3月は「小児科から成人の診療科への移行に係る支援」を予定している。いずれの事業もコロナ禍の沈静化及びウェブサイトやリーフレット等による事業周知の工夫により、昨年度よりも参加者数が増加し、小規模病院等看護職のネットワーク構築が進展した。また、山形県看護協会とも適宜連絡を取り合い、大学と職能団体の相互理解を深めた。</p> <p>○相互交流</p> <p>「病院から大学へ」の相互交流事業として令和6年10月～12月に小規模病院看護職が大学に来るプログラムを企画し、7施設10名が参加した。新型コロナウイルス感染症の影響の継続により、学外での臨地実習への参加はできなかった。「大学から病院へ」も行わなかった。また、数年に渡り相互交流に参加してきた病院が、昨年度と今年度、総合看護学実習Ⅰの新たな実習フィールドになる等、小規模病院との協働が進展している。</p> <p>○Jナースカフェ支援</p> <p>令和7年2月27日にオンライン開催で「看護実践・看護研究発表会と地元ナース事業」のカフェを開催した（計11名参加）。小規模病院看護師1題、本学看護学科教員2題の報告がなされた。また、新年度以降の地元ナース事業について説明がなされた。</p> <p>○協力病院会議、地元ナース懇談会</p> <p>令和7年2月19日に「連携協力病院会議」をオンラインで開催した。11病院14名及び大学から10名が参加した。2月20日には「地元ナース懇談会」を開催した。懇談会委員2名（山形県看護協会常任理事、GP経験のある市民）及びオブザーバー1名（山形県医療支援課担当者）がオンラインで参加した。大学からは7名が参加した。連携協力病院会議、地元ナース懇談会ともに、来年度以降の新たな「地元ナース特論」についての質問が出され、今後の進め方への示唆を得る重要な機会となった。</p> <p>○その他</p> <p>委員が関わった研究活動として、①日本地域看護学会第27回学術集会の教育講演「地域ケアを支える地元ナースの養成」、②日本ルーラルナースング看護学会第19回学術集会の研究発表「看護系大学生が1年次に持つ看護職のイメージ」「看護系大学生が1年次に『地元』と『生活者』を理解する手がかり～地元を探求する意義とは～」、③第44回日本看護科学学会学術集会の交流集会「地元創成看護学のIT活用探究ー地域保健医療で『人に優しいIT化』を進めるスウェーデンに学ぶー」を実施した。</p>

令和6年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムの実施結果

1. 開講科目等

科目名	単元数(ICT開講単元数)	時間数(時間)
看護の動向と課題	1 (1)	4.5
地域密着連携	6 (2)	13.5
根拠に基づく看護	5 (4)	22.5
看護研究の基礎	9 (6)	22.5
合計	21 (13)	63

2. 開講日等

開講期間：令和6年8月27日(火)～令和6年11月26日(火)

開講日数：14日

3. 履修者数

31名 (病院28名)

<内訳>

○申し込み時

全科目履修希望者数 6名

(病院6名)

単元履修者数 25名

(病院22名)

○終了時

全科目受講者数 (R6年度履修)3名、(R5年度履修)2名、(R4・5年度履修)1名

(病院6名)

単元履修者数 25名

(病院22名)

受講単元数の内訳

受講単元数	1	2	3	4～6	7～9	10～12	13以上
人数	7	4	3	5	1	2	9

4. ICTの利用状況

・履修者:31名中6名利用

利用者は、大学より遠方に所在する病院の看護師と、家族に感染者が出たため自宅から受講する者であった。

・全科目履修者:6名中0名利用

5. 履修証明書の交付について

全科目履修者 3 名と令和 4~5 年度からの受講者 3 名を合わせた 6 名について看護学科教員会議に諮り、修了についての審議を行った。6 名全員修了と認定し、履修証明書*を交付した。

*本ブラッシュアッププログラムは、学校教育法第 105 条に基づく「履修証明プログラム」として実施しており、60 時間以上の講習を受講し、修了要件を満たした者には、本学から同法に基づく「履修証明書」が交付される。

6. 満足度・理解度等について

各講義終了後に回収した Minute Paper から、講義への取り組み、講義内容の理解度、講義の満足度を分析した。

【講義への参加度】

・大学での受講者において、「参加できた」「どちらかといえば出来た」は、100%だった。

【内容の理解度】

・大学での受講者において、「理解できた」「どちらかといえば出来た」が 98.7%だった。

【講義の満足度】

・大学での受講者において、「満足できた」「どちらかといえば出来た」は 99.2%だった。

⇒ 講義内容や構成に関して、参加度や理解度から概ね良いと考えられる。

7. 今後について

・ICT の利用者は多いとは言えないが、遠方であったり、感染症の都合で来学できない場合に利用されている。今後も ICT が利用できる状況は維持することが必要である。



令和6年度 履修証明プログラム・職業実践力育成プログラム

小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム
受講生募集要項



公立大学法人山形県立保健医療大学
看護実践研究センター 地元ナース事業推進部会

■ 小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムとは

本学が独自に山形県内の小規模病院・診療所、高齢者施設等に勤務する看護職を対象に行うプログラムです。

小規模病院等の看護職の方々が地元の医療福祉の担い手としての役割を再認識し、発展的な看護を実践する能力の向上を図ることを目的としています。

なお、このプログラムは「履修証明プログラム」及び「職業実践力育成プログラム」となっています。

◆ 履修証明プログラムとは

履修証明プログラムとは、社会人等の者を対象に大学等が、一定のまとまりのある学習プログラムを提供するプログラムです。プログラムを受講し修了要件を満たした者には、大学から学校教育法に基づく履修証明書を交付することができることとなっています。

本学では、履修証明プログラムとして、「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」を実施しています。

◆ 職業実践力育成プログラムとは

文部科学大臣が認定した大学、大学院、短期大学及び高等専門学校（以下、「大学等」という。）における社会人や企業等のニーズに応じた、主に社会人を対象とした実践的・専門的なプログラムです。正規課程と60時間以上の体系的な教育で構成される履修証明プログラムが対象となっています。

1 出願要件

大学入学資格を有する者又はこれと同等以上の学力を有すると認められる者で、次の要件のいずれかに該当する者としてします。

- ① 病床数が原則として200床未満の病院に勤務する看護師、保健師、助産師
- ② 有床又は無床の診療所に勤務する看護師、保健師、助産師
- ③ 高齢者施設又は障がい者施設に勤務する看護師、保健師、助産師
- ④ 訪問看護ステーション又は在宅ケア関連機関に勤務する看護師、保健師、助産師

*上記の要件に該当しない場合でも、学長が認めた場合は受講が可能な場合がありますのでご相談ください。

2 募集定員

20名程度

3 出願受付期間

令和6年7月1日(月)～令和6年8月2日(金)

4 受講料

無料

5 出願書類

- ①履修証明プログラム受講願書兼履修者登録票(写真貼付)
記入方法は別紙をご参照ください。(ご不明な点はお問い合わせください。)
- ②受講単元申込書

6 出願方法

願書を提出する場合は、簡易書留とし、封筒の表に「ブラッシュアッププログラム願書在中」と朱書きし郵送してください。令和6年8月2日(金)消印有効です。

7 履修許可証の送付について

出願受付期間終了後、送付します。

8 履修証明書の交付

連続する2年以内に、カリキュラムの中から合計60時間以上を履修し、修了と判定された者に履修証明書を交付します。

◆ プログラムの概要

1 名称

小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム

2 受講期間

令和6年8月27日(火)～令和6年11月26日(火)

*開講式及びオリエンテーションは、講習会初日(8月27日)10時から行います。

*閉講式は最終日(11月26日)の講習終了後に行います。

3 受講の方法

- ①履修証明書の取得を目的としないで、単元をいくつか選択して受講することも可能です。
- ②裏面のカリキュラムのICT欄に「○」のついている科目は、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型授業です。これらの講義(演習は除く)は、ライブでの参加が可能です。

* ICT (Information and Communication Technology) とは情報通信技術の総称です。

■ 願書の請求・提出先及び問い合わせ先

公立大学法人山形県立保健医療大学 看護実践研究センター

〒990-2212 山形県山形市上柳 260 番地

TEL / FAX: 023-686-6643

E-mail: ns-cent@yachts.ac.jp

4 カリキュラム

ブラッシュアッププログラムは、次の4つの科目で構成されています。

科目名	単元名	単位	授業時間・担当講師名	開講日	ICT
看護の動向と課題	・看護の動向と課題	3	菅原京子・佐藤志保	8月27日(火)	○
地域密着連携	・地域医療連携の概要と現状	2	菅原京子	9月3日(火)	○
	・リハビリ職からみる地域医療連携	1	みゆき会病院 黒田昌宏		○
	・連携のためのスキル	3	NPO 法人まちづくり学校 稲村理紗	9月10日(火)	/
	・地域包括ケアシステムの現状と課題 MSW が果たす役割	1	訪問診療クリニックやまがた 五十嵐絵美	9月17日(火)	○
	・地域包括ケアシステムの現状と課題 コミュニティが果たす役割	1	地域包括ケア総合推進センター 東海林かおり		○
	・事例から地域包括ケアシステムを考える	1	五十嵐絵美・東海林かおり 高橋直美		/
根拠に基づく看護 *演習あり	・皮膚ケアの看護	3	山形大学医学部看護学科 片岡ひとみ	9月24日(火)	○
	・摂食・嚥下困難を抱える患者の看護	3	言語聴覚士 梁瀬文子	10月1日(火)	○
	・生活習慣病を抱える高齢患者の看護	3	佐藤志保	10月8日(火)	○
	・フィジカルアセスメント 呼吸器	1	佐藤志保	10月15日(火)	/
	・フィジカルアセスメント 循環器	1	齋藤愛依		/
	・フィジカルアセスメント 腹部(消化器系)	1	高橋直美		/
	・終末期にある患者の看護	3	高橋直美	10月22日(火)	/
看護研究の基礎	・看護研究の進め方	3	佐藤志保	10月29日(火)	/
	・事例研究の基礎	1	佐藤志保	11月5日(火)	○
	・量的研究の基礎	1	齋藤愛依		○
	・質的研究の基礎	1	今野浩之		○
	・倫理的配慮	1	今野浩之	11月12日(火)	○
	・研究発表の意義と方法	1	高橋直美		○
	・研究計画書の作成方法	1	鈴木龍生		○
	・研究計画書の作成	3	菅原京子・鈴木育子・栗田敦子 佐藤志保・鈴木龍生	11月19日(火)	/
	・研究計画書の発表準備	2		11月26日(火)	/
	・研究計画書の発表	1			/

網掛け: 本学教員

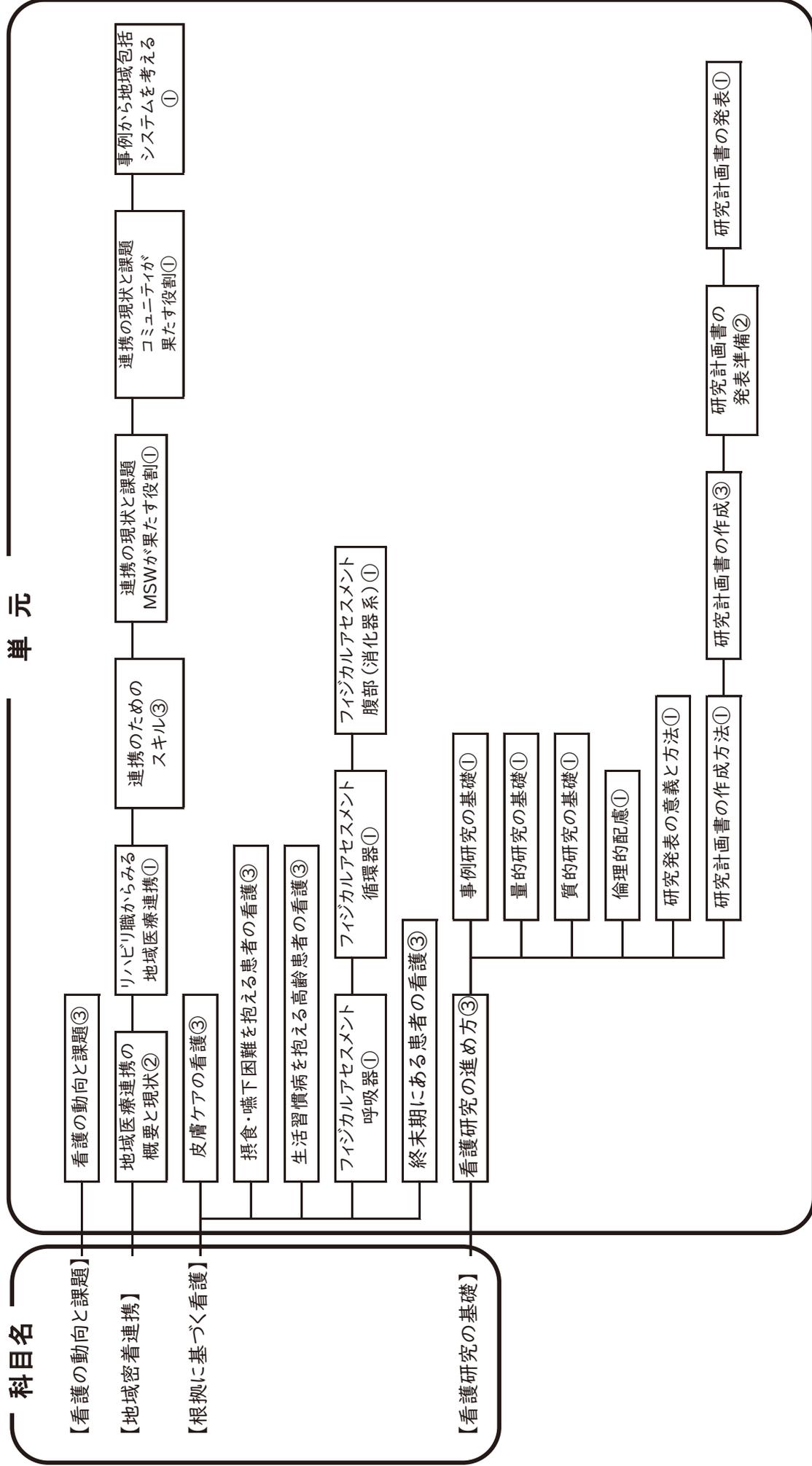
* 1日3時限の開講になります。(Ⅰ:10:30-12:00 Ⅱ:13:00-14:30 Ⅲ:14:40-16:10)

* ICT欄に「○」のついている科目は、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型授業です。

これらの講義(演習は除く)は、ライブもしくは開講翌日以降に視聴することが可能です。

* プログラムの内容およびカリキュラムツリーは、山形県立保健医療大学ホームページ 看護実践研究センター (<http://www.yachts.ac.jp/center/>)にも掲載しています。

令和6年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム カリキュラムツリー



* ○内の数字は、制限数。(1制限は90分)
合計 24単元(63時間)

令和 6 年度 フォローアップ研修実施結果

参加者:令和 5 年度「看護研究の基礎」履修修了生 1 名

1. 看護研究ステップアップ研修 (全 5 回:令和 6 年 8 月 28 日~12 月 18 日)

2. 概要

月 1 回の間隔で、対面で研修を行い、参加者が作成した研究計画書をもとに、ディスカッションを行い、計画書を整え、調査に入る段階まで進めた。

今年度は、院内看護研究で実施予定の研究テーマをもとに、ディスカッション、助言等を行い、質問紙と依頼文書の作成まで行い、次年度実施可能な段階まで進めることができた。

3. 総括

今年度も、感染状況により、看護研究ステップアップ研修のみのフォローアップ研修を実施した。

開催日程は昨年と同様に月 1 回とした。間隔があくことによって、参加者が自施設で検討したり、研究を実施するための日程調整を行う時間が確保できていたようであった。

看護研究へのフォローアップや支援は、ブラッシュアッププログラムにおいてもニーズが高いと思われるので、今後も続けていきたい。

「地元ナース事業推進部会」令和6年度フォローアップ研修実施要項

小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム履修証明プログラム修了者を対象に、ブラッシュアッププログラムの学びをさらに深め、現場で活用することが出来るようにフォローする研修である。

I 目的

- ・小規模病院等で展開するスタッフ教育を実施できる企画力と調整力を養う。
- ・小規模病院等における新人看護師・スタッフへの指導力を培う。
- ・発展的な看護を実践する能力の向上を図る。

II 対象者

小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム履修証明プログラム修了者

III 研修開催期間・開講時間

- ・開講期間：令和6年8月～令和6年12月（5日間）
- ・開講時間：〈1時限〉10:30～12:00 〈2時限〉13:00～14:30
〈3時限〉14:40～16:10

IV 研修内容・学習方法について

今年度は、学部授業の新カリキュラムへの移行、感染状況等を鑑み、看護研究ステップアップ研修を行います。

○ 看護研究ステップアップ研修（全5回）

学習内容：研究計画書の作成、研究方法の実践、研究のまとめと発表。

学習方法：演習を通して看護研究のプロセスを展開、実践する。

Zoomでの参加可能。

回	日程	時限	具体的な内容（参加者の進捗によって変わります。）
1	8月28日(水)	1	研究計画書を作成・完成
		2	
		3	
2	9月25日(水)	1	調査の準備・実施
		2	
		3	
3	10月30日(水)	1	研究の進捗状況報告・調査の実施
		2	
		3	
4	11月20日(水)	1	研究の進捗状況報告・データ分析
		2	
		3	
5	12月18日(水)	1	まとめ、発表準備 発表、意見交換
		2	
		3	

- 1) 対面での参加も可能
- 2) 各参加者の進捗状況に応じて支援します。
- 3) 受講料無料。

V 会場

山形県立保健医療大学 多目的教育室(3階)

VI 申し込み方法

申込書(別紙)に記入し、FAX、e-mail、郵送のいずれかの方法で送付して下さい。
締め切り:8月21日(水)

VII その他

- ・体調が悪い時は、研修への参加は控えて下さい。

令和6年度 第1回クリニックナースの看護 up to date～Web セミナー 実施報告

1. 開催日時・場所

令和6年12月22日（日）13時30分～15時
Zoomを使用したオンラインライブ配信。

2. 参加者

診療所看護師 8名

3. 内容

○テーマ: 認知症と認知機能のアセスメント

内容: 認知症の基礎理解、認知症を取り巻く社会環境、治療と関わり方、地域包括ケアシステムと認知症
担当: 鈴木 龍生

○接続環境

・特に問い合わせはなく、トラブルなく配信出来た。

4. 参加者からのご意見、ご感想

- ・とてもわかりやすく認知症についてや、クリニックナースとしてできることを理解することができた。
- ・小児科勤務であまり業務に活かすことがないかもしれないが、子供たちを育てるご家族の皆様や地域の皆様の認知症の早期発見、専門医療への紹介などに役立てていけたらと思う。

5. 課題

- ・終了後アンケートへの回答率が悪かった。

6. 今後の検討事項

- ・講演内でアンケート回答フォームを提示するだけでなく、終了後に回答フォームの URL を送付する必要がある。

令和6年度相互交流研修事業の実施結果

1 相互交流研修事業

小規模病院等の看護師と本学看護学科教員が、お互いの業務を理解し教育力の向上を図る。

2 交流実施日程等

(1) 大学 ⇒ 病院

今年度なし。

(2) 病院 ⇒ 大学

令和6年10月9日(水)～12月12日(木) (5日間)

7病院から計10名:小国町立病院3名、公立高畠病院1名、川西湖山病院1名、寒河江市立病院1名、矢吹病院1名、尾花沢病院1名、みゆき会病院2名

<研修内容>

日程	時 限	項目	内容・方法	担当
10月9日 (水)	1	オリエン テーション	相互交流の目的・大学教育について	菅原京子
	2		学内施設の見学と利用について	佐藤・鈴木
	3		教員、研修参加者同士の交流	佐藤・鈴木
10月23日 (水)	1	教材の作成	web 会議サービスを利用した授業や、動画コンテンツ・アンケート・テストの作成・活用	佐藤・鈴木
	2			
	3		動画コンテンツの作成	
11月8日 (金)	1	大学教育における 看護学実習に関する 講義と演習	実習の位置付け、組み立て ・大学教育における実習の位置づけや組み立て 等について	菅原京子
	2		実習受け入れの経験 ・実際に実習を受け入れた経験のある小規模病 院等の実習担当看護師より受け入れの実際 についての講義	小規模 病院等 看護師
	3		自施設での実習受け入れの検討	菅原京子 佐藤志保
11月20日 (水)	1	教材の活用	シミュレーターに触れ、操作を体験し、自施設で の研修への活用等の検討。	佐藤・鈴木
	2	講義への参加	「在宅看護概論」 学部学生の授業に参加	鈴木育子
	3	演習の体験	研修会活用スキル アイスブレイクの活用と体験	佐藤・鈴木
12月12日 (木)	1	講義・演習への 参加	「地元(やまがた)探求Ⅱ」の概要について	佐藤・鈴木
	2		「地元(やまがた)探求Ⅱ」 学部学生の授業に 参加	佐藤・鈴木
	3			

3 参加者の主な感想・意見

<研修成果・所感>

○教材の作成・活用:

- ・アンケートはいつも紙ベース作っていたが、Google フォーム使用して作成することで、ペーパーレスだけでなく集計にも役立つことを理解できた。今後は、私自身が現場において動画を入れたパワーポイントや、Google フォームを利用したアンケート作成を行いたい。スタッフに教えて繋げられるようにしたい。
- ・Google フォームの使い方を全く知らなかったが、今回の学びで今後様々な場面で活用できると感じた。
- ・パワーポイントの使い方では、見やすいものとそうでないものを比較してみることができ相手に伝える、相手が見やすいものを作成するポイントを知ることができた。相手に伝わりやすいよう学んだことを生かしたい。

○大学における看護学実習:

- ・教育する側と受ける側には力関係が発生することも、自覚する必要があることを実感した。
- ・高島病院での実際を聞き、実習を受け入れによる現場職員への良い影響があることを知ることができた。指導者のスキルアップは、学生だけでなく、新人など若手職員への指導などで生かしていきたい。
- ・学生と若手看護師の交流が行われていることで相互理解や成長を感じる場となっていることを知り、当院でも実習指導者だけが関わるのではなく、そのような交流ができるようにしていきたい。
- ・実習指導者だけでなく、病棟スタッフ全体で学生と関わり、指導する姿勢や雰囲気を作ることも、実習指導者として必要と感じた。

○在宅看護概論:

- ・在宅看護学の授業に参加させていただき、実際の教育の場面に触れることができた。
- ・在宅療養者と家族支援について学び、患者支援の際には、家族全体をアセスメントし家族の持つ力を見極める事が重要であると再確認した。

○シミュレーターの活用:

- ・シミュレーターモデルを活用したシミュレーション教育について学び、研修を計画する際の流れを知ることができた。特にデブリーフィングは考える力、意見を引き出せるような環境作りが不可欠であることを学んだ。
- ・シミュレーターの活用で演習を強化でき、学生が直接患者に触れるケアが難しくなってきた時代背景においては、シミュレーターでの経験が有効とわかった。

○地元(やまがた)探求Ⅱへの参加:

- ・地元探求では、自分にとっての地元とは、医療の課題とは何かを考える機会となった。当院でも一人暮らし、高齢者世帯が増え支援を必要とする患者様が増えている。受診時の状況から療養上の課題や問題をとらえ、住み慣れた場所での治療が継続できるよう多職種と連携し関わっていく必要があると日々感じている。今後は当院の役割を意識しながら医療の提供を行っていきたいと思う。
- ・スタッフ研修テーマとして、「地域の生活に密着した医療について」考え、意見交換し課題について検討する機会を作っていきたいと思った。

<研修に対する意見・要望等>

- ・いろんな病院の看護師と交流し打ち解ける事ができ、少しだったが、情報交換もでき、有意義な時間だった。
- ・この度の研修を通し相互交流を行ったことで、小規模病院の役割をあらためて認識した。その中で、自分の役割や目指す看護について改めて考える機会となった。
- ・もっと指導方法、指導論について知りたいと思った。
- ・小規模病院の強みを新たに気づかせてもらうことができた。
- ・他病院で勤務する方と関わる機会は多くないので、この研修を通して、学生に対してどのような指導をしてい

るのか、各病院の特徴などを知ることができ有意義だった。

・今の学生の考え方や傾向等が変化しており、自分たちが学生のころとは異なる点を知ること、より良い学びの空間を作り上げることが出来るのではないかと思います。

4 総括及び今後の課題

○今年度も【大学 ⇒ 病院】は、教員の派遣を行わなかった。病院はまだ新型コロナウイルス感染症や他の感染症が起きており、多忙な状況であったため派遣を見送った。

○今年度の【病院 ⇒ 大学】は、10月～12月に5日間の日程で実施した。初日は参加を必須とし、4日間は選択しての参加を可能とした。参加施設は7病院で、計10名が参加し、これまでの相互交流研修でも多い人数の参加があった。

○今年度も複数の病院から参加があったことで、同じような規模の病院ならではの課題やさまざまな情報交換ができていた。

○大学における看護学実習では、大学の看護学実習（総合Ⅰ）を受け入れた経験について小規模病院の看護師より聞き、自施設での実習受け入れを想定したプログラム作成の演習を行った。自施設でどのような実習を行うことができるか、内容を考え組み立てる演習を通し、実習の捉え方だけでなく自施設の強みに気付く機会にもなっていたようであった。

○今年度も、学部（1年次）授業の「地元（やまがた）探求Ⅱ」の講義に参加した。参加者から自身のキャリアや看護観などを話していただいた。経験を積んだ熟練看護師からの話は、数年の経験を経た先輩看護師とも違ったキャリアや看護観を知り、考える機会となっていた。学生と参加者双方にとって、地元で働く意義、キャリアを積むことなど考える、良い機会となっていたようであった。

○今後も、小規模病院の看護師が交流できる機会や、学生に看護観やキャリア、小規模病院の看護の魅力などを語る機会を設けたい。

文責：佐藤志保

「地元ナース事業推進部会」令和6年度相互交流研修実施要項

(小規模病院等看護師用)

I 相互交流の目的

小規模病院等の看護師と本学看護学科教員が、お互いの業務を理解し教育力の向上を図る。

II 到達目標

1. 大学教育に関するオリエンテーションを通して、本大学における教育理念、教育課程の編成や実施の方針、人材育成の取り組みについて理解することができる。
2. 講義や演習を通して、教材の作成と活用方法を学ぶとともに、看護学実習の構造や教員と臨床指導者との連携を理解することができる。
3. 教員との意見交換を通して、自施設の特徴をふまえ、実習の受け入れに関する課題や新たな実習の展望、自施設における人材育成の課題や展望を検討することができる。
4. 大学の講義や演習を通して、学生の様子を知る。また、学生がどのような内容の授業を受けているのか理解できる。

III 対象施設

協力病院 11 施設

公立高島病院、最上町立最上病院、川西湖山病院、小国町立病院、順仁堂遊佐病院
町立真室川病院、尾花沢病院、県立こころの医療センター、みゆき会病院、
寒河江市立病院、矢吹病院

IV 対象者

対象施設に勤務しており、所属長から推薦を受けた看護職者

V 相互交流に係る主な要件

- ・研修場所までの交通費や宿泊費については病院側で対応する。

VI 日程と具体的な内容

	日程	時 限	項目	内容・方法	担当
必 須	10月9日 (水)	1	オリエン テーション	相互交流の目的・大学教育について	菅原京子
		2		附属図書館など学内施設の見学と活用について	佐藤志保
		3		教員、研修参加者同士の交流	鈴木龍生
＊ 複 数 選 択 可	10月23日 (水)	1	教材の作成	web会議サービスを利用した授業や、動画コンテ ンツ・アンケート・テストの作成・活用	佐藤志保 鈴木龍生
		2		動画コンテンツの作成	
		3			
	11月8日 (金)	1	教材の活用	シミュレータに触れ、操作を体験し、自施設での 研修への活用等の検討。	佐藤志保
		2	講義への参加	「在宅看護概論」学部学生の授業に参加	鈴木育子
		3	演習の体験	研究会活用スキル アイズブレイクの活用と体験	佐藤志保
	11月20日 (水)	1	大学教育における 看護学実習に関する 講義と演習	実習の位置付け、組み立て ・大学教育における実習の位置づけや組み立て 等について	菅原京子
		2		実習受け入れの経験 ・実際に実習を受け入れた経験のある小規模病 院等の実習担当看護師より受け入れの実際につ いての講義	小規模 病院等 看護師
		3		自施設での実習受け入れの検討	菅原京子 佐藤志保
	12月12日 (木)	1	講義・演習への 参加	「地元(やまがた)探求」の概要について	佐藤志保
		2		「地元(やまがた)探求Ⅱ」 学部学生の授業に参加・ディスカッション	
		3		振り返り	

◆研修の時間帯は下記のようになっています。

- ・1 時限：10:30～12:00 ・2 時限：13:00～14:30
- ・3 時限：14:40～16:10

VII その他

- ・オリエンテーションを10月9日(水)10時30分より、3階多目的教育室にて行います。
- ・研修終了後、報告書を指定の様式に記入して提出してください。
- ・状況に応じて、マスクの着用・手洗い等の感染対策に留意してください。
- ・体調が悪い時は、研修への参加は控えて下さい。

令和6年度「地元ナース事業推進部会」事業評価表

(S:計画を上回って実施している A:計画を十分に実施している B:計画を十分に実施していない C:計画を実施していない)

【リカレント教育】小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム

計 画	実 施 状 況	成果と今後の課題	自己 評価	外部 評価
<p>①1～3月 令和6年度の開講時期・内容・方法の検討・決定</p> <p>②5月 募集要項送付</p> <p>③8月～11月 プログラム開講</p>	<p>①令和5年度連携協力病院会議で得られた要望および令和5年度全科目履修生の意見や感想を参考に、令和6年度のプログラム内容の検討を行った。</p> <p>・週1回(3コマ/日)開講</p> <p>・開講期間:8月下旬～11月下旬</p> <p>②募集要項を対象施設284ヶ所に送付した。</p> <p>③13施設から31名の受講申し込みがあり、その内3名は、新規施設2ヶ所からの申し込みであった。</p> <p>※新規施設:特別養護老人ホーム成島園 特別養護老人ホーム逢仙園</p> <p>今年度の全科目履修者3名と令和4～5年度からの受講者3名を合わせ、履修証明プログラム(60時間)で履修証明書交付を受けた修生は6名であった。</p> <p>④受講前調査では、本プログラムに対し新たな知識を身につけたい、知識や技術を再確認し自信をつけたいといった思いの他、地域密着型の小規模病院として、退院に向けた支援や多職種との連携を積極的に図れるよう学びを得たいといった期待が示されていた。</p> <p>受講後調査では、社会情勢と看護の動向、地域密着連携など、わかりやすく学ぶ機会とな</p>	<p>【成果】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の5類感染症へ移行された昨年からの参加施設数ならびに参加者数の増加が図れ、今年度は昨年度(22名)を上回る参加者数を得た。また、同施設から複数名の参加が増え、新型コロナウイルス感染症の終息に伴う病院側の院外研修への協力だけでなく、本プログラムの周知が図られたことやプログラム自体への成果と評価できる。</p> <p>プログラム前に新たな知識を得ることの他、再確認し自信につなげたことなどを期待していたが、受講後に様々な学びの機会となり、現場へ還元できると捉えており、参加者個々にとって意義深いプログラムになっていたと評価できる。</p> <p>対面とオンラインを組み合わせたハイブリット開催の単元には、計6名が参加し、遠方であることや身内に感染者が出たことなどで急遽利用した参加者もあった。ICTの利用者は少数であるが、遠方や諸事情により来学が叶わない場合にも参加が可能となる方法として、利用できざる環境は維持していく必要がある。</p> <p>【課題】</p> <p>プログラム開催前後および開催期間中に受講生から内容や運営上の課題を指摘されるものはなかった。今後への要望として挙げられていた内容について検討が必要である。</p>	A	A
<p>④8月・12月</p> <p>プログラム前後調査</p> <p>対象:全科目履修生</p> <p>プログラム前調査項目:</p> <p>・期待していること</p> <p>・身につけたい力</p> <p>・学びの活用</p>				

<p>・興味関心の高い単元 プログラム後調査項目： ・期待に応える内容か ・興味関心が高かった単元 ・新たに学びたいこと ・改善点・要望</p> <p>⑤2～3月 次年度プログラムの検討</p>	<p>ったと共に、多職種からの講義を受けることで、様々な視点やそれぞれの役割、考え方を知らずとができていた。また、根拠に基づく看護ではすぐに実践に活かせる内容が多く学べ、楽しく学べたと評価していた。今後への要望として、急変時の看護、入院を繰り返す慢性疾患患者への介入、抄録作成などがあった。</p>	<p>【課題への取組方針】 要望として挙げられていた内容について、次年度に織り込めるよう検討する。</p>	
---	---	---	--

【リカレント教育】フォローアップ研修

計 画	実 施 状 況	成果と今後の課題	自己 評価	外部 評価
<p>①6月 令和1～4年度ブラッシュアッププログラム修了生にフォローアップ研修案内送付</p> <p>②8～12月「フォローアップ研修」を実施する</p>	<p>①令和1～5年度のブラッシュアッププログラムの履修修了生でフォローアップ研修未受講者と令和5年度「看護研究の基礎」単元履修修了者21名に対し、フォローアップ研修の案内を送付した。</p> <p>②1名の参加申し込みがあった。 8月～12月に、計5回の開催を予定し、参加者の都合により4回実施した。 〈ICT活用状況〉 ICT利用が可能であることを参加者に伝えていたが、対面を希望され使用しなかった。</p>	<p>【成果】1名ではあったが、単元履修修了者からの参加があった。 月1回の開催となったが、次回開催までの期間が十分にあったことで、参加者が自施設内で計画書を検討する時間がとれたようであった。また、調査に向けて日程調整もできていた。</p> <p>【課題】参加者が増えない。参加者が複数いれば、デイスカッションを行うことができ、研究への理解が進むと考えられる。</p> <p>【課題への取組方針】次年度からの新体制に合わせた、研修や支援の方法を検討する。 〈ICT〉 ICTの利用はなかった。</p>	A	A

【リカレント教育】J ナースカフェ

計画	実施状況	成果と今後の課題	自己評価	外部評価
<p>○8月・3月 リカレント教育受講者や相互交流研修参加者を中心に、小規模病院等の看護職の交流・情報交換の場として「Jナースカフェ」を開催。</p>	<p>令和7年2月27日(木)13:30~15:30で、看護実践・看護研究発表会と地元ナース事業をテーマに開催を予定している。 <ICT活用状況> 原則対面で実施するが、感染症の状況などを踏まえ、ICTを活用したハイブリット形式での開催を予定している。</p>	<p>【成果】令和7年2月に開催予定であり、準備を進めている。 【課題】年2回の開催を予定しており、広報もしていたが、開催担当側側の調整がつかず、1回の開催(予定)となってしまった。実施可能な日程調整を進める必要がある。 【課題への取組方針】次年度からは体制が変わるので、変更後に開催を企画していく。 病院看護師が交流し、情報交換する機会はほとんどないようである。交流の場を継続して提供していく。</p>	B	B

【リカレント教育】看護 up to date

計画	実施状況	成果と今後の課題	自己評価	外部評価
<p>○12月・3月「看護 up to date 研修」を実施する。</p>	<p>1回目は、令和6年12月22日(日)13:30~15:00に、「認知症と認知機能のアセスメント」のテーマで実施した。参加者は8名であった。 2回目は、令和7年3月16日(日)13:30~15:00に、「小児科から成人の診療科への移行に係る支援」のテーマで実施予定である。 <ICT活用状況> Zoomを使用し、オンラインのみで研修を行った。</p>	<p>【成果】 第1回の参加者は例年と同様程度であったが、終了後アンケートにおいてポジティブなコメントが散見された。特に、クリニックナースという立場を活かし地元で貢献していくために、本研修の内容を活かしていきたいといった感想も聞かれ、本事業の狙いに即した反応が得られた。 第2回は、令和7年3月16日(日)に開催予定であり、準備を進めている段階である。</p>	A	A

【相互交流】

計画	実施状況	成果と今後の課題	自己評価	外部評価
①10～12月 大学教員と小規模病院等の看護職との相互交流を行う。	①「病院から大学へ」の相互交流を、10～12月の期間で5日間行った。参加者は、7病院から10名であった。 「大学から病院へ」の相互交流は、各種の感染症の影響を考慮し、実施しなかった 〈ICT活用状況〉 ICTは活用しなかった。	【成果】今年度も多数の参加者があり、活発な交流が行われた。初日、参加者と教員が交流する時間を設けた。また、1年生の「地元（やまがた）探求Ⅱ」の授業に参加し、自身のキャリアや看護観などを話してもらったことにより、学生と参加者がキャリアについて考える機会となった。 【課題】「大学から病院へ」の相互交流の実施は、感染症や日程の関係で困難であった。 【課題への取組方針】次年度からの新体制の企画に沿って、交流実施について検討、提案する。 大学教員と小規模病院等の看護職との交流は、実習施設の開拓や授業への協力を図るうえでも重要と思われる。交流の機会を継続できるように検討する。	A	A
②2月 相互交流を希望する小規模病院等の意向確認と調整を行う。				

【ICT活用】

計画	実施状況	成果と今後の課題	自己評価	外部評価
○リカレント教育においてICTを活用する。	ICTは、小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム、フォローアップ研修、看護 up to date で使用または使用を予定した。また、web会議システム Zoom を使用して行った。 ①令和6年度の小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム全21単元の内、ICTでの受講可能な単元は14単元あった。今年度のICTを利用した受講者は、延べ6名であった。 ②看護 up to date は、オンライン形式でのみ	【成果】参加者がZoomを使用することに慣れた印象があり、ほぼトラブルなく実施できた。 ①ICTを利用した受講者は少なかつた。利用した受講者は、居住地が大学より遠方であったり、家族が感染症で自宅待機となったためであった。 ②看護 up to date:参加者は大学より遠方に在住している方が多く、ICTを利用した方が気軽に受講しやすいようであった。また、山形市以外からの受講希望者が増加しており、リピーターも多々みられた。	A	A

	行った。	<p>③フォローアップ研修:ICT利用も可能としたが、利用しなかった。対面でディスカッションを行った方が、研修内容が深まる場合が多いためと考えられた。</p> <p>【課題】すべての内容が ICT 利用に向くとは限らない。</p> <p>【課題への取組方針】次年度からの新体制において、利用可能な内容については利用できるようにする。また、参加者の状況によって利用が可能となるよう、利用の可否の選択肢を広げる。</p>	
--	------	--	--

【事業普及・推進】

計 画	実 施 状 況	成果と今後の課題	自己 評価	外部 評価
<p>①ホームページ更新、ホームページコンテンツの見直し、修正</p> <p>②本事業で実施した各事業の成果や課題をまとめ、関係学会への発表や論文投稿を行う。</p>	<p>①令和6年度リカレント教育に関する実施要項など、ホームページに掲載した。 大学ホームページのリニューアル後、「看護実践研究センター」のページを更新し、カリキュラムや募集要項、事業報告等に掲載した。また、看護実践研究センターの事業報告を掲載した。</p> <p>②令和6年11月2日に本学で開催した日本ルーラルナーシング学会(会長:鈴木育子)において、地元ナースの活動について報告した。 地元ナース事業開始10年目となり、記念誌を看護実践研究センターとして作成し、ホームページに掲載することが決定した。(掲載は来年度)</p>	<p>【成果】実施要項、事業報告等を随時ホームページの看護実践研究センターに掲載した。記念誌を作成することが決定した。</p> <p>【課題】地元ナース事業に関する内容が、大学ホームページのトップページから探しにくい。看護実践研究センターのページからも探しにくい。</p> <p>【課題への取組方針】大学トップページのお知らせのバナーに記事を掲載し、そこから目的のページにつながるように工夫する。</p>	A	A

③2月 連携協力病院会議と地元ナース懇談会における事業評価をホームページで公表。	③3月末に実施予定。		
④3月 令和6年度地元ナース推進事業部会事業報告書作成・ホームページ公表。	④3月末に実施予定。		

【事業評価】

計画	実施状況	成果と今後の課題	自己評価	外部評価
①2月 本事業の協力施設の看護部長や各事業参加看護師を招き、連携協力病院会議を開催する。	①令和7年2月19日(水)に「連携協力病院会議」を開催予定。	【成果】令和7年2月19日(水)「連携協力病院会議」、令和7年2月20日(木)に「地元ナース懇談会」を開催した。それぞれの会議において、活発な意見交換を行うことができた。今後の事業の進め方への示唆を得る重要な機会となった。	A	A
②2月 地元ナース懇談会開催。	②令和7年2月20日(木)に「地元ナース懇談会」を開催予定。			
③その他				

令和6年度連携協力病院会議の概要

日時：令和7年2月19日（水）

13時30分～15時

オンライン会議（Zoom）

【出席者】

協力病院：

（公立高畠病院）高橋由美	（川西湖山病院）大淵愛
（小国町立病院）今友帰子	（順仁堂遊佐病院）信夫松子、川村恵理子
（町立真室川病院）土田久美子	（みゆき会病院）渡邊修
（寒河江市立病院）渡邊ひろみ、後藤智子	（山形県立こころの医療センター）小林純子
（尾花沢病院）齊藤ゆかり、長倉優姫	（矢吹病院）大宮喜和美
（町立金山診療所）長岡由美	

大学：菅原京子、鈴木育子、高橋直美、栗田敦子、佐藤志保、鈴木龍生、貝野瀬優希
小松良子、庄司和弘、横尾美聡

【概要】

資料に基づき、各事業について報告された。その後、情報交換・意見交換を行った。

○病院からの意見

*小規模病院等ブラッシュアッププログラム

- ・BPに今回参加した2名は自主的なものところからの声掛けのものと半々であった。参加者の意見では、ほかの病院と交流できたのがよかった。自分が所属している委員会（褥瘡）で生かせたという手ごたえがあったという職員がいた。
- ・職員へ声掛けをし希望を聞くと、積極的に参加してくれる職員が多い。参加して帰ってくると元気になって帰ってくる印象を受けている。遠方の方はICTを利用することは大事だが、病院から出て違う雰囲気を感じながら学ぶことは大事だと思うため、対面参加は続けてほしい。
- ・病院から出て外で学ぶ環境に同じような職場環境の方々と一緒に過ごすことが意味があったと思う。参加者からはリフレッシュになってよかった、楽しかった、という声が聴かれた。できれば対面で違った学ぶ環境に身を置かせて参加させてほしい。
- ・参加者の立場で全科目履修を目指して通った。これまでいろんな病院の人と話す機会がほとんどなかったため、病院の特徴を知り、それにあった看護を学ばせてもらう機会になった。講義もわかりやすかった。

・初めて当院から全科目履修希望者を出したが、遠方であっても対面で通うことがリフレッシュの意味合いもあってよかった。ICTでも複数名参加でき、学びになったようであった。

・BPへの参加は本人の希望や声掛けに快く呼応してくれた職員が多い。学んだことは伝達研修という形でほかの職員に共有しており、病院全体として新たな学びを得る良い機会であると感じている。

・小規模病院という新しい知識を得る機会が少ない中で、貴重な学びを得られる機会であると思っている。遠距離だが、ぜひ対面で参加したいと思っている。

・学びの場所を提供していただき感謝している。小規模病院ということで参加することが難しい環境だが、興味のある部分を学んでもらうことで、個人や施設のレベルアップにつながるとしている。当院ではBPへの参加者は手上げ式で参加者を募っており、今後も学んできてもらったことを院内で広めてもらい、病院の質を高めていくことにつなげていきたいと思っている。

*フォローアップ研修

・フォローアップ研修に参加し、看護研究に対し億劫になっている感じがあった職員だったが、BPに参加し翌年フォローアップへの参加を経て、協会での発表会までやり遂げられたことが本人の力になったようであった。次年度も研究を続けたいと希望が聞かれており、本人のモチベーションにもつながっていると思っている。

・フォローアップ研修にも複数参加者を出したいが、小規模病院であるため複数の職員を出すことは難しいが、できる限り希望がある職員をフォローアップに参加させていきたいと思っている。

*Jナースカフェ

・Jナースカフェは参加するまでのハードルが高いように感じている。3月だと異動の時期になっているので、開催時期は検討してほしい。

*看護 Up to date

・看護 Up to date の参加者からは、勉強になり刺激がもらえた、との声が聴かれた。

*相互交流事業

・他の病院の方との交流にはやや緊張したが、アイスブレイクなどの活用も通し、打ち解けて話すことができた。ほかの病院の話の聞けたり、相談する機会となったりした。学生の学びを知ることもでき、本学の実習指導にも活かすことができると感じている。

・相互交流参加者からも、病院ではなかなか触れないシミュレーターを触るなどの経験ができた、学びになったという声が聴かれている。

・相互交流参加者から、院内にいと外の情報が入りにくいが、外の病院のことや学生の状況を知ることができ、新人教育に活かそうだ、との感想が聞かれた。

・相互交流に参加することで、自分の病院の機能やどういう役割をもっているかを考えたり、自身の看護を見直すきっかけとなったように感じている。

*その他

・10年の間に人事異動が多く、なかなか積極的な参加がかなっていないが、県立病院の新人交流の経験も含め、今後積極的に検討していきたい。

・看護師は専門職であり学びたい意欲を持った人が多くいるため、そういう機会があることがよいと思う。

○病院からの質問

・正職員ではないがパート職員の看護師でも参加してよいか？

→パート職員でもぜひご参加いただきたい。

【地元ナース事業再編案についての説明 概要】

・センター長より説明があり、病院からの意見を聞くとともに質疑に応答した。

令和 7 年度連携協力病院会議 出席者一覧

令和 7 年 2 月 19 日

所属	役職	氏名(敬称略)
公立高畠病院	看護部長	高橋 由美
川西湖山病院	看介護部長	大淵 愛
小国町立病院	看護副部長	今 友帰子
順仁堂遊佐病院	副院長兼看護部長	信夫 松子
	病棟主任	川村 恵理子
町立真室川病院	総看護師長	土田 久美子
みゆき会病院	副院長兼看護部長	渡邊 修
寒河江市立病院	総看護師長	渡邊 ひろみ
	副総看護師長	後藤 智子
山形県立こころの医療センター	副院長兼看護部長	小林 純子
尾花沢病院	多職部長	齊藤 ゆかり
	病棟主任	長倉 優姫
矢吹病院	統括看護部長	大宮 喜和美
町立金山診療所	看護師長	長岡 由美
山形県立保健医療大学	地元ナース事業推進部会長 看護実践研究センター長	菅原 京子
	相互交流	鈴木 育子
		小松 良子
	履修証明プログラム	高橋 直美
		栗田 敦子
	フォローアップ研修 J ナースカフェ 看護 up to date	佐藤 志保
		鈴木 龍生
		貝野瀬友希
	事務局	庄司 和弘
		横尾 美聡

*欠席:最上町立最上病院、特別養護老人ホームはとみね荘

令和6年度地元ナース懇談会の概要

日時：令和7年2月20日(木)

13時30分～15時

オンライン会議(Zoom)

【出席者】

委員：後藤道子（公益財団法人山形県看護協会常任理事）

 渋谷光晴（山形県観光文化スポーツ部県民文化会館 館長代理）

代理出席：菅野香（山形県健康福祉部地域医療政策課看護師確保対策主査）

（敬称略・順不同）

大学：菅原京子、鈴木育子、高橋直美、栗田敦子、佐藤志保、鈴木龍生、貝野瀬友希

傍聴：遠藤和子

【概要】

・各事業の実施評価について資料に基づき報告された。その後、事業ごとに意見交換・質疑応答・評価を行った。

○リカレント教育

・大学での講義は近年の社会的背景や地域を取り巻く医療現場の状況を知る事ができる上、今後必要とされる支援を学ぶことができると感じる。

・講義科目に関しては、高齢化が進む地域の現状に沿ったものとなっており、現場で活用できる内容であったと思う。小規模病院では認定看護師の在籍が他病院と比べて少なく、大学で専門的分野を学ぶ事ができるのは貴重な機会だったと感じる。講義を通して自分たちが行っている退院支援が地域包括ケアシステムにどのように活かされているのかを知ることができた。

・グループワークも多く実施しているため看護師同士での情報交換の場となり、小規模病院における看護師の役割に理解を互いに深めることができ、良い経験となった。

・看護研究に関して、大学・専門学校により経験の違いがあるため、基礎から学ぶことでそれぞれ知識の習得、振り返りを行う事ができたのが良かったと思う。

・ブラッシュアッププログラムで学んだ内容を個人間での学びに収めるだけでなく、病院へどのようにアプローチすれば知識をフィードバックできるのか、大学から助言を設ける機会があれば嬉しい。病院へのフィードバックが増えれば、勤務する看護師の知識向上の他、ブラッシュアッププログラムの周知になるかと考えている。

○相互交流事業

・大学から病院への相互交流が実施できていないのは、病院側から実習は難しいと返答されるのか？

→病院側が忙しい状況であったり、大学側の都合と病院側の都合の日程調整が困難な状況にある。

・酒田で学校が訪問看護ステーションに行った事例があった。ぜひ時間をつくって、大学から病院に実習に行ければよいと思う。

・実習以外で大学と関わることがないため、このような機会は貴重であった。

・新卒者の病欠者と離職者が増加しており現場で困っている。学校と現場のギャップや、離職につながらないような教育方法を知りたい。

・大学→病院につながるものが少なくなっているが、実習先の開拓等の理由以外に、本来の相互交流の趣旨を踏まえ、今後交流が活発化することを期待している。

○ICT 活用

・講義のみの場合は Zoom で行っているのか？

→ハイブリッド形式で開催している。

・ICT 利用については、天候や感染状況、距離的な負担があるため、可能な部分は積極的に活用したいと思っている。

○事業普及・推進と事業評価

・現場の看護師が大学の HP を閲覧する機会がほとんどない。県の看護協会等の HP に案内を載せるなど、看護師が利用する頻度の多い場所に活動案内を置いてほしい。

・どの医療現場も人員不足や感染状況により、育成事業や交流事業に参加することが難しい状況下と思われるため、早めに周知してほしい。

・看護協会としても SNS などによる周知に協力したいと思っている。

【地元ナース特論】

・菅原センター長より地元ナース特論についての説明があり、委員からの意見を聞くとともに質疑に回答した。

令和6年度地元ナース懇談会出席者名簿一覧

令和7年2月20日

	氏名(敬称略)	所属及び役職	出欠
懇談会委員	谷嶋 弘修	山形県健康福祉部 医療政策課 医療政策課長	欠席
	後藤 道子	公益社団法人山形県看護協会 常任理事	
	渋江 光晴	山形県観光文化スポーツ部県民文化館 館長代理	
	山田 敬子	山形県保健所長会 会長	欠席
	渡部 麻衣	公立高畠病院 看護師	欠席
	富樫 栄一	元 学校法人東北公益文科大学 事務局 事務局長	欠席
山形県立保健医療大学	安保 寛明	看護学科長	欠席
	菅原 京子	地元ナース事業推進部会長、看護実践研究センター長	
	鈴木 育子	相互交流担当	
	高橋 直美	履修証明プログラム担当	
	栗田 敦子	履修証明プログラム担当	
	佐藤 志保	フォローアップ・J ナースカフェ・up to date 担当	
	鈴木 龍生	フォローアップ・J ナースカフェ・up to date 担当	
	貝野瀬 友希	フォローアップ・J ナースカフェ・up to date 担当	
	小松 良子	相互交流担当	欠席
	庄司 和弘	事務局	欠席
	横尾 美聡	事務局	欠席

* 傍聴：菅野 香（看護師確保対策主査）、遠藤 和子（大学）

部会名【教育力向上部会】
委員名 安保寛明 中村康香 今野浩之 山田カオル 樋谷由美子 佐藤志保 渡邊礼子
2024 年度 実績と課題
<p>○看護研究相談・支援</p> <p><実績></p> <p>山形県内の医療機関、小規模病院などを対象として、看護研究相談支援を継続して実施した。今年度は医療機関からの研究相談があり、2医療機関において研究活動に対する助言を行った。</p> <p><今後に向けて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関における研究相談には一定のニーズがある。また、研究活動を補助する教材（資料やpowerpoint）が望まれる可能性があり、検討や開発を続ける必要がある。 また、事業開始時点と比較して研究活動に対するニーズが変化している可能性があるため、研究活動に関するニーズを把握する必要がある。 <p>○看護教育力向上</p> <p><実績></p> <p>県内の看護職者を対象として、教育力向上のための研修会として「看護職者の洞察力を高める演習の展開」を企画して2025年3月6日（木）に実施する予定である。昨年度は、5医療機関から7名の参加があった。</p> <p>また、県（地域福祉推進課）の委託事業により、県内の自治体保健師を対象にした教育力向上のための研修会として、SOS の出し方教育の実施者養成講座とフォローアップ講座を県内2地域（庄内、村山）地域でおこなった。このうち実施者養成講座には2か所合計で37名の県内の保健師等関係者が参加した。各自治体内での市民向けの啓発（教育）プログラムが実施されるようになった。このほか、ゲートキーパー研修実施者養成講座に関して、県精神保健福祉センターによる開催の際に講師の派遣を行った。</p> <p><今後に向けて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一機関から一日程で参加できる医療者には限りがあるが、年度をまたいで同種の研修会を開催したことで昨年度以前の課題に対応した。この取り組みに関する評価を行うことにも意味があると考えられる。 ・事業開始時点から時間が経過し、人々の学修方略も変化していると考えられる。保健医療人材育成においても必要な方法が変化している可能性があるため、教育力向上に資する方略について潜在的・顕在的なニーズを検討することが必要である。

部会名【地域連携推進部会】
委員名 沼澤(統括), 桂・丸山・齋藤(高校 1 年生セミナー, ホームカミングデー), 菊地・前田(母子保健コーディネーター人材養成研修※, 県中連携), 半田(特定行為) ※母子コについては遠藤恵子先生と連携
【2024 年度】 実績と課題 1. 高校生を対象とした看護体験セミナー(委託事業) 1) 実績 日時: 令和6年8月 10 日 【午前】10 時~12 時 【午後】13 時 30 分~15 時 30 分 参加者: 109 人(村山 71 人、最上 1 人、置賜 16 人、庄内 20 人、うち午前午後参加 6 人) 内容: 以下の 4 つのテーマの模擬授業に、希望する高校生が受講した ①アタマとこころ次第であなたも看護ができる!! ②健康情報を正しく伝えるために ③新しい家族を迎えるための看護 ④こころの健康とストレス 2) 課題 昨年度までは、高校 1 年生、あるいは 1・2 年生を対象としたが、より多くの高校生に参加してもらうために、今年度は全学年対象とした。セミナーの満足度については、全参加者が「大変満足」「ある程度満足」と回答しており、好評であった。単に職業を体験することより、高校生が看護を学ぶことへの関心を高めるための内容や方法の工夫・検討が必要である。また、休日実施のため、模擬授業担当教員や協力する在校生の確保も課題である。 2. 山形県母子保健コーディネーター人材養成研修会(委託事業) 1) 実績 1 回目: 令和 6 年 10 月 31 日、本学(対面)で実施。「セルフ・コンパッション」に関する講義、「楽しく子育て支援するために自分にできること」についてワールドカフェによる検討。参加者 33 人。 2 回目: 令和 6 年 12 月 18 日、本学(対面)で実施。「特定妊婦の妊娠中の支援」をテーマに講義と事例検討。参加者 35 人。 県内市町村母子保健コーディネーター、市町村保健師、今後母子保健コーディネーターとして従事する可能性のある保健師・助産師・看護師を対象として開催した。 2) 課題 今年度は対面のみで開催し、研修内容はおおむね好評であった。 3. 地域医療体験セミナー(今年度は学生支援委員が担当して実施) 1) 実績 令和 6 年 7 月 27 日: 3 病院で実施 寒河江市立病院: 学生 5 人(3 年生 4 人、4 年生 1 人)

国立病院機構米沢病院学生 6 人(1 年生 1 人、3 年生 5 人)

県立新庄病院学生 15 人(1 年生 1 人、2 年生 1 人、3 年生 13 人)

令和 7 年 2 月 6 日:1 病院で実施予定

天童市民病院:学生 11 名参加(1 年生 7 名、2 年生 3 名、3 年生 1 名)

昨年度は実施病院を一つのみとしたが、今年度は 4 病院で実施し、参加学生が増加した。内容は、病院や看護体制の紹介、チーム医療や地域医療の取組等の説明に加えて、院内見学といったプログラムとした。

2) 課題

来年度は、実施時期を 9 月と 2 月として学年暦に予定を組み入れることとした。また、学生が参加しやすくなるように、セミナー内容や周知について検討の必要がある。

4. ホームカミングデー

1) 実績

日時:令和6年7月 27 日(土) 13:30~15:30

テーマ:大学時代の仲間・先輩たちとオンライン交流(Zoom)

対象:令和3(2021)年度~令和5(2023)年度の看護学科卒業生 3 名

開催方法:4 名の先輩卒業生(1 期生)を招いて、先輩の現在の仕事や生活についてお話しいただき、参加した 3 名の卒業生とフリートークを行った。

2) 課題

参加者数が少なかったものの、卒業生と先輩卒業生との交流は十分に行うことができた。今後は、卒業生のニーズ、費用対効果、学内の運営委員の負担も踏まえた上で、内容、開催頻度(毎年ではなく隔年など)等について検討することが必要である。

5. 県立中央病院との連携(大学・病院連携協議会の事業計画による)

1) 実績

病院開催公開新人研修:

4 月 18 日「採血・注射・点滴」:4 年生 5 名参加

4 月 27 日「移乗・移送」:4 年生 7 名参加

公開新人研修、インターンシップいずれも学生から好評で満足する内容であった。共同研究や研修会は開催しなかった。

2) 課題

学生のニーズに合った研修内容を検討し、引き続き学生の参加を促す。共同研究については、大学教員や病院看護職員への周知と働きかけを積極的に行っていく。

※県受託事業による特定行為研修に関する共同研究は、令和 5 年度までに成果発表を終了している。

令和6年度 看護実践研究センター運営委員会名簿

氏名	職名
菅原 京子	看護実践研究センター運営委員会委員長 地元ナース事業推進部会長
沼澤 さとみ	看護実践研究センター運営委員会副委員長 地域連携推進部会長
遠藤 和子	看護実践研究センター運営委員 教育力向上部会
安保 寛明	看護実践研究センター運営委員 教育力向上部会長
桂 晶子	看護実践研究センター運営委員 地域連携推進部会
菊地 圭子	地域連携推進部会
中村 康香	教育力向上部会
鈴木 育子	地元ナース事業推進部会
半田 直子	地域連携推進部会
今野 浩之	教育力向上部会
高橋 直美	地元ナース事業推進部会
槌谷 由美子	教育力向上部会
山田 香	教育力向上部会
丸山 香織	地域連携推進部会
齋藤 愛依	地域連携推進部会
渡邊 礼子	教育力向上部会
栗田 敦子	地元ナース事業推進部会
佐藤 志保	地元ナース事業推進部会、教育力向上部会
鈴木 龍生	地元ナース事業推進部会
前田 のぞみ	地域連携推進部会
貝野瀬 友希	地元ナース事業推進部会
小松 良子	地元ナース事業推進部会
庄司 和弘 (総務課長)	看護実践研究センター運営委員
横尾 美聡 (総務課主事)	看護実践研究センター運営委員

山形県立保健医療大学看護実践研究センター運営要綱

制定 平成 27 年 6 月 4 日

改正 平成 29 年 4 月 1 日

平成 31 年 4 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、山形県立保健医療大学看護実践研究センター運営規程（平成 26 年規程第 18 号）第 6 条の規定に基づき、山形県立保健医療大学看護実践研究センター（以下「実践センター」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(運営委員会の構成等)

第 2 条 運営委員会は、看護実践研究センター長（以下「実践センター長」という。）及び学長が指名した教職員で構成する。

- 2 運営委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の中から学長が指名する。
- 3 第 1 項の委員のうち、学長が指名する委員の任期は 2 年とする。ただし、補欠の委員として指名された委員の任期は前任者の残任期間とする。
- 4 学長は必要があると認める場合は、第 1 項の委員の他に教職員の中からオブザーバーを指名することができる。

(運営委員会の審議事項)

第 3 条 運営委員会は次の事項を審議する。

- (1) 看護実践研究センターの活動計画に関する事
- (2) 実践センターの予算・決算に関する事
- (3) 実践センターの評価に関する事
- (4) 実践センターと学内委員会等との調整に関する事
- (5) その他実践センターに関する重要事項に関する事

(運営委員会の会議)

第 4 条 委員長は運営委員会の会議（以下「会議」という。）を招集し、その議長となる。

- 2 会議は委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 会議の議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。
- 4 会議には、必要に応じ委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(部会)

第5条 実施センターに次の部会を置く。

(1) 地元ナース事業部会

- イ 小規模病院等看護職リカレント教育及び相互交流に関すること
- ロ 学士教育課程との連携に関すること
- ハ 協力病院会議に関すること
- ニ 地元ナース懇談会に関すること
- ホ Jナースカフェ支援に関すること

(2) 特定行為研修部会

- イ 特定行為研修ニーズ及び指定研修機関に関する調査研究に関すること

(3) 看護教員養成講習会部会

- イ 看護教員養成講習会受託事業に関すること

(4) 教育力向上部会

- イ 小規模病院等看護研究指導に関すること
- ロ シミュレーション教育に関すること
- ハ 模擬患者派遣相談に関すること
- ニ 看護専門学校教員との共同研究に関すること

(5) 地域連携推進部会

- イ 高校1年生セミナーに関すること
- ロ 卒業生支援（ホームカミングデー）に関すること
- ハ 県立中央病院との連携に関すること
- ニ 実践センターの広報に関すること
- ホ ICT整備に関すること

2 前項各号の部会の構成員は、実践センター長が指名するものとし、うち1名を部会長に指名する。

3 各部会の会議は定期的に部会長が招集するものとする。

(部会長会議)

第6条 実践センター長は、必要に応じ各部会長で構成する部会長会議を開催するものとする。

2 部会長会議では、各部会における実施状況の報告や各部会間の調整事項等について協議する。

(庶務)

第7条 運営委員会の庶務は、実践センターにおいて処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の実施について必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成27年6月4日から施行する。
- 2 山形県立保健医療大学看護実践研究センター委員会要綱（平成27年2月3日制定）は廃止する。
- 3 第6条第1項の各部会のメンバーについては、「山形発・地元ナース養成プログラム事業」の助成期間にあっては、それぞれ同事業における「リカレント教育チーム」、「看護研究相談・支援チーム」及び「ICT活用チーム」のメンバーとし、部会長は同チームリーダーを充てるものとする。

附 則

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成31年4月1日改正）

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

山形県立保健医療大学看護実践研究センター運営規程

平成 26 年 10 月 31 日

規 程 第 18 号

改正 平成 31 年 4 月 1 日規程第 4 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、公立大学法人山形県立保健医療大学の組織及び運営に関する規則（平成 21 年規則第 1 号）第 7 条第 2 項の規定に基づき、山形県立保健医療大学看護実践研究センター（以下「実践センター」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 実践センターは、県内の看護職を対象に看護継続教育、研究指導、情報発信等を行うことにより、本県における看護実践水準の向上を図ることを目的とする。

(業務)

第 3 条 実践センターは、その目的を達成するために、次に掲げる業務を行う。

- (1) 看護職を対象とした実習指導力養成教育
- (2) 看護職を対象とした実践力向上のためのフォローアップ教育
- (3) 看護研究に関する相談・指導等の支援
- (4) 看護実践・研究に関する情報発信
- (5) その他実践センター長が適当と認めた業務

(職員)

第 4 条 実践センターに、実践センター長、兼任職員及び必要な職員を置く。

- 2 実践センター長は、看護学科教員の中から理事長が任命する。
- 3 実践センター長は、第 3 条各号に定める業務について掌理する。
- 4 実践センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
- 5 実践センター長が任期満了前に辞任し、又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 6 兼任職員は、看護学科教員及び事務局職員をもって充てるものとする。

(実践センター委員会等)

第5条 実践センターの円滑な運営を図るため、実践センターに運営委員会を置く。

- 2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。
- 3 実践センターに部会を置くことができる。

(委任)

第6条 この規程に定めるもののほか、実践センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

この規程は、平成26年11月1日から施行する。

附 則 (平成31年4月1日改正)

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

○協力病院・施設

令和7年3月現在

病院等名	所在地	病床数	主な診療科
公立高畠病院	高畠町大字高畠 386	130	内・外・整形・婦・小
最上町立最上病院	最上町向町 64-3	60	内・外・整形・婦・眼
川西湖山病院	川西町大字下奥田 3796-20	109	内・整形・
小国町立病院	小国町あけぼの一丁目 1	26	内・外・整形・婦・小
特別養護老人ホームはとみね荘	高畠町大字高畠 303	-	
順仁堂遊佐病院	遊佐町遊佐字石田 7	84	内・外・小・婦・リハ
町立真室川病院	真室川町大字新町 469-1	55	内・整形・耳鼻
尾花沢病院	尾花沢町大字朧気 695-3	152	内・消・精内・心内・リハ
山形県立こころの医療センター	鶴岡市茅原字草見鶴 51-1	213	精・心内・自動・思春期精神
みゆき会病院	上山市弁天二丁目 8-11	183	内・整形・小・歯・放
寒河江市立病院	寒河江市大字寒河江字塩水 80	98	内・整形・外・眼・皮
町立金山診療所	金山町金山 548-2	0	内・外・小
矢吹病院	山形市嶋北四丁目 5-5	40	内・外・腎臓内科・放・消

○協力病院の位置づけ

内容	協力病院等	以外
リカレント教育企画参画	○	—
リカレント教育受講	○	○
大学との相互交流	○	—

看護実践研究センター
令和6年度 活動報告書

令和7年3月発刊

発行 公立大学法人山形県立保健医療大学 看護実践研究センター

〒990-2212 山形県山形市上柳 260 番地

TEL・FAX 023-686-6614